

令和 7 年度 県立神栖高等学校自己評価表

目指す学校像	<p>「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒一人一人の人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういじめのない環境をつくる。 		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	<p>●「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 目標実現に向け、協働的に粘り強く挑戦できる。 ② 地域や社会における「解のない問い」に対峙できる。 ③ 様々な「自立」に向け、主体的、意欲的に行動できる。 ④ 心身ともに健康で、情操豊かで他人を思いやることができる。 ⑤ 地元を愛し、地域を知り、個人や社会に「貢献」できる。 	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	<p>●「学ぶ喜びを感じながら、主体的・協働的・探究的・社会的に学びを深める」</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 個々の目標や進路希望に応じた教育内容を提供する。 ② 進路希望の実現に向けたキャリア教育を実践する。 ③ 新技術を活用した様々な教育活動を実践し、高度情報化社会に対応できる能力を開発する。 ④ 個々の学習到達度や状態等に応じた個別最適な学びをサポートする。 ⑤ 多様な評価を実施し、自己効力感を高める。 	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	<p>●資質・能力並びに3年間計画する教育内容を踏まえ、神栖高校生として前向きに取り組める生徒を求める。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 中学校で修得すべき基礎学力の上に、各自の心身の発達及び進路に応じて、一層の学力を身に付けようとする生徒 ② 主体的に学習する態度や習慣を身につけ、進路実現を目指し、日々努力する生徒 ③ 学校内外の様々な活動(部活動、芸術活動、ボランティア活動)等に積極的に取り組み、実践し、表現しようとする生徒 ④ 人への思いやりを大切にするという精神を尊重しようとする生徒 ⑤ 本校で身に付けた資質・能力を発揮して、世界や地域の課題を自分の課題として、解決に向けて探究するとともに、仲間と一緒に活動しようとする生徒 	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>重点目標の達成に向けた取り組みにより、学校全体が落ち着いてきている。また、新聞などメディアへの掲載や学校公開、積極的なホームページでの情報発信等により、諸活動が地域で評価され、生徒一人一人の自信へと繋がり、中学生への良いPRともなった。</p> <p>また、ICT 活用の充実は徐々に浸透しており、Google Workspace for Education等の活用の推進を図りながら「興味・関心・意欲を高める授業」のため、効果的な学習指導のさらなる研究・実践が望まれる。</p>	(1) 基礎学力の向上と授業の質の向上	<ol style="list-style-type: none"> ① 家庭学習の定着及び進学課外の充実 ② 学習・進路に対する明確な目標設定と上位級への挑戦を含む資格取得の奨励 ③ 授業力向上と進学指導体制の構築 	B
	(2) 基本的な生活習慣の定着と安全指導の充実	<ol style="list-style-type: none"> ④ 時間遵守の意識付けと規則正しい生活習慣の確立 ⑤ 制服の正しい着こなしの徹底 ⑥ SNS等インターネットの安全な活用法の習得といじめの未然防止及び早期発見・早期解消 ⑦ 交通事故の未然防止(自転車の安全指導・交通マナー指導) 	B
	(3) 自ら課題を発見する力の育成	⑧ 探究活動の充実	A

別紙様式2 (高)

<p>生徒支援では、生徒の個々の特性に応じた継続的な支援により学年が上がるごとに規範意識の向上がみられる。「安全・安心」な学校のため、交通関係やいじめ防止教育については、未然防止教育の充実を図り、関係機関との連携をしながら学校組織として取り組んでいく。</p> <p>進路支援では、粘り強く丁寧な支援により24名の生徒が四年制大学に進学した。また、就職内定率も97%を超えた。今後も引き続き、検定試験対策、公務員希望者への組織的な支援を強化し、生徒の自学自習スタイルを確立させるとともに、主体的な進路選択・希望進路の実現を目指す。</p> <p>学校行事や部活動等では、従来通りの状況での実施がなされた。各種委員会や生徒会は、校内外において積極的に活動を続けており、生徒の自己有用感の向上に大きく貢献している。今後は、行事の精選や部活動の見直しの上での適正な活動実施が求められる。</p> <p>神栖市との包括連携協定のもと、神栖市役所や商工会などとも協力するなど、より一層、地域と連携し生徒の対外的な活動を推進する。また、進路支援部と各学年の連携による進路学習の計画的な履行により、探究活動の充実を図る。</p>	(キャリアパスポートとの連携)	<p>⑨ ICT機器を活用した授業実践と積極的な研修</p> <p>⑩ キャリアパスポートの定期的かつ積極的な利用</p> <p>⑪ チャレンジプロジェクト計画案の確実な実施</p>	
	(4) 授業改善の促進	<p>⑫ 全ての授業において、授業満足 (KPI) 度が3.6以上</p> <p>⑬ 授業改善に向けた互見授業を年2回以上実施</p>	B
	(5) 広報活動の更なる充実	<p>⑭ 学校HPの活用と充実</p> <p>⑮ 携帯連絡網 (マ・メール) の効果的な活用</p> <p>⑯ 校内掲示の充実及び電子機器の積極的活用</p>	A
	(6) 外部機関との連携	<p>⑰ 神栖市との包括連携協定の充実</p>	A
	(7) 働き方改革の推進	<p>⑱ 定時退勤日、完全退勤時間の徹底</p> <p>⑲ 資料、情報のネットワーク上でのスマートな蓄積、管理及びペーパーレス化の推進</p>	A

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度 (学期) への主な課題
教科	国語	生徒の興味・関心・意欲を高める授業を展開する。	アクティブ・ラーニングの視点に立った授業研究を積極的に行い、生徒が主体的に学習に取り組むための環境を整える。 ②③	A	<p>・授業における ICT 活用方法の模索、及び実際の効果的な活用</p> <p>・言語活動の充実を目指した授業改善</p> <p>・読書習慣確立のための指導・働きかけ</p>
		基礎学力の向上を図る。	週末課題を課し、漢字・語彙・ことわざ・慣用句等、学習の基礎基本の定着を図るとともに家庭学習の定着を図る。 ①	A	
			学期毎に全学年共通の「漢字コンクール」を実施し、漢字検定受検への意識を高めさせるとともに、検定受検者数の増加を目指す。 ②③	A	
		豊かな人間性の育成に資する授業を展開する。	言語活動を取り入れ、教材を通して豊かな心を育む指導の工夫を行う。 ②	B	
	地歴公民	基礎学力の向上を図り、発展的な内容にも取り組む。	授業の関連図書や生徒の興味関心に合わせた図書の紹介を行い、読書に親しむ習慣を確立させる。 ①②	B	
			定期的にノートや課題を提出させ、生徒の学習状況を確認する。 ②	A	
			生徒が調べ学習を行い、その内容を記述したり、発表する機会を作る。 ②	B	
		生徒の興味・関心を高める授業の展開を図る。	最新のニュースを積極的に取り上げ、生徒が現在の社会情勢に触れ、考察する機会を作る。 ②	B	
	視聴覚教材を有効活用することで社会的事象への興味・関心を高め、学習内容の理解を深める。 ①③	B			
	教材研究の工夫や情報共有をすることで、分かりやすい教材を提供し、授業実践に活かす。 ①③	B			

別紙様式2 (高)

数学	確かな学力を養成する。	少人数授業や習熟度別指導で、基礎的基本的な「知識・技能」の習得とその定着を図る。 ②	A	A	・基礎的な学力向上を目指した学習活動の充実 ・学習習慣の定着に向けた取り組み
	学習の習慣化を図る。	電子黒板やオンライン学習等を活用し、「思考・判断・表現」の力を高める。 ①②⑨	A		
		日々の課題や週末課題を計画的に作成し、「主体的に学習に取り組む態度」を育てる。①	B		
理科	実験活動の充実を図り、生徒の主体的・対話的な学びを促進する。	ノートや問題集の定期的な確認により、生徒の学習状況や理解度を把握する。また、常に授業の改善に努める。 ①②	A	A	・実験前後に仮説・考察を共有する活動の定型化 ・生徒が自分の考えを持つ習慣の定着
		身近な素材を用いた簡易実験（例：身近な化学反応や物理現象）を研究・導入する。 ③⑨	A		
	理科を日常生活や地域社会と結び付け、科学への興味関心を深める教材を開発・活用する。	実験の前後に生徒の仮説・考察を共有する時間を取り、科学的思考力を育成する。 ②③	B		
		日常の疑問（例：なぜ雷は鳴る？ なぜ食品は腐る？）を出発点とする導入を工夫する。 ②⑫	A		
保健体育	規律ある集団行動の徹底を図る。	開発した教材を校内の教材共有フォルダに蓄積し、教科内での情報共有を図る。 ⑨⑬⑱	A	A	・体力向上の意識の醸成 ・体力テストの判定 A+B 群の増加及び D+E 群の減少 ・ICT 活用の充実に向けた授業改善
	学習意欲の向上を図る。	時間厳守を徹底し、開始時間前に着席・活動場所への移動・着替えを徹底する。 ①②④	A		
		指定体育着の着用・制服の着用など運動・学習にふさわしい服装を徹底させる。 ①②⑤	B		
	運動部加入率を高める。	自主的自発的、協力して積極的に授業に取り組む姿勢を育成する。 ①②⑨⑫	A		
音楽	音楽への興味・関心を高める。	自他の安全を確保し思いやりを持たせ、学力・体力の向上を目指す。 ①②⑫	A	A	・生徒の ICT 利用の充実に向けた授業改善 ・生徒がより積極的に取り組むことが出来る授業形態の工夫
	音楽の諸能力の向上を図る。	体力向上・自己実現に向け、意欲的な生活ができるよう育成する。 ②⑫	B		
		生徒が積極的に活動に取り組むことができるよう、ICT の利用や教材の精選、授業形態の工夫を行う。 ①②	B		
書道	書道に対する興味・関心を高める。	生徒の状況や特性に合った課題や題材を設定し、よりきめ細かい指導を行う。①②③④	A	A	・基礎的な書写技術の習得に向けた指導の工夫・改善 ・ICT の活用
	書道に必要な能力の育成を図る。	音楽の基礎的知識と表現および鑑賞の活動を結びつけ、より深く音楽と向き合い、味わう姿勢を養う。 ②③	A		
		書の歴史を学びながら、さまざまな書体と書風を学び、表現する楽しみを味わわせる。 ①	A		
外国語	国際理解の心を育てる。	定期的硬筆書写練習を行い、硬筆書写技術の向上を図る。 ①③	A	B	・帯活動の継続による基礎力と学習習慣の定着 ・振り返り活動を基盤とした授業改善と主体的学びの促進 ・スピーキング、ライティングを中心とした実践的アウトプット活動の充実
	基礎学力の向上を図る。	古典の臨書を通して基本的な書写能力を養い、その能力を活かした創作を行う。 ①	B		
		帯活動を充実させ、学習習慣の定着を図る。 ①②	B		
		少人数指導や習熟度別指導を通じて、生徒一人一人の理解度に応じた指導を行う。 ③	A		
	「わかる」授業展開のための工夫をする。	単元毎の振り返りを実施し、生徒が自信の理解度を確認し、学習の反省・目標を明確にできるよう支援する。 ①②	B		
		Writing 活動や単元ごとの音読テストを実施し、インプットとアウトプットのバランスを考慮した授業を行う。 ③⑫	A		
		ペアワークやワークシートを効果的に活用し、生徒同士が互いに学び合う環境を整える。 ③⑫	B		
	実践的な英語運用能力の育成を図る。	スピーキングやリスニングの活動を充実させ、日常的な場面で英語を活用する力を養う。 ③⑫	B		
		プレゼンテーションや場面を想定したパフォーマンステストを通じて、自分の考えを英語で伝える力を育成する。 ③⑨⑫	B		

別紙様式2 (高)

家庭	基礎的知識・技術の定着を図る。	ノート・ワークシート・製作物を提出させ、生徒の意欲・実力を確認する。 ②	A	B	・グループワークの実践 ・基礎知識の定着		
		授業研究に取り組み、指導の工夫改善を図り、指導力を高める。 ②③	B				
	家庭への興味・関心を持たせる。	各分野の学習内容の工夫改善を図る。 ②③	A				
		グループワーク等から自分らしさを知り、他者を理解し認め合う心を育む。 ②⑫	B				
	情報	基礎学力の向上を図る。	学習ノート・実技課題を定期的に提出させ、的確に学習状況を把握する。 ①③	A	B	・生徒のタブレットの活用	
			ネットワークを利用する上での、ルール・マナーを理解させる。 ①	B			
商業	授業への意欲を持続させる。	生徒個々のレベルに合わせた課題を与え、成果を的確に評価し意欲を持続させる。 ①③	B	A	・検定教育を踏まえ実用的な知識技術の教育		
	基礎学力の向上を図る。	基礎的な知識を身に付けさせ、実技科目における機器の操作の習熟を図る。 ①②	A				
		生徒の理解を確認しながら、その進捗状況に合わせ継続的な指導の工夫改善を行う。 ①②	A				
	学習意欲の向上を図る。	各種の検定試験にチャレンジさせ資格取得に努めさせる。 ①	B				
教務	授業力の改善に努める。	年間2回、校内授業週間を設定し、教員相互の研修の機会を計画・実施する。 ③⑨⑬	B	A	・互見授業の振り返りを通じた、更なる授業力の向上 ・互見授業を活用した生徒情報の共有 ・図書館の利用率向上 ・書籍の精選、読書のPR ・継続的なICTの活用の推進 ・様々な校内システムのマニュアルの共有、及び使用の徹底		
	学習意欲の向上を図る。	年間2回、生徒状況調査を行い、現状を把握し改善すべきところを改善する。 ①②⑫	B				
	学校全体の教育活動を支援するために図書の実践を図る。	図書購入と除籍を行い、教育活動に役立つ資料を充実させる。 ②⑧	A				
	読書の推進と図書館利用の増加を図る。	生徒が利用しやすい図書環境をつくり、図書館の利用率を高める。読書のPRに努める。 ②⑧⑫	A				
	業務の効率化を図る。	IT活用推進委員会と連携し、ICTの的確な運用によって校務の効率化を図る。Google Workspace for Education等の活用の推進を図る。 ⑨⑫⑬⑭⑮	A				
特別活動	生徒主体の学校（生徒会）運営を目指す。	各種委員会は工夫改善した活動を計画的に進める。 ④⑰	A	A	・すべての委員会によるが見られ、積極的かつ主体的な活動の実施 ・生徒評議会による学校の校則見直し等の主体的話し合いによる実施へ向けた取り組み ・体育祭等の行事での新たな試み		
		生徒評議会での強化項目等を学校生活に反映させる。 ④⑤⑦	B				
		部活動（運動部・文化部）の活性化と自発的活動の促進を図る。 ⑧⑭	B				
		生徒会を中心としたボランティア活動や広報活動を推進する。 ④⑭⑰	A				
	HR活動の充実を図る。	学年・分掌・生徒評議会等が連携して、HRの内容を充実させる。 ④⑧⑫	A				
		学校内外の活動をキャリアパスポートにより把握し、個を伸ばす指導を行う。 ⑩⑰	B				
学校行事を通して帰属意識を育成する。	学校行事の意義を含め、積極的な参加を促し、学校の活性化を図る。 ⑧⑭⑫⑰	A					
生徒支援	家庭や地域と協力し、基本的な生活習慣の徹底を図る。	毎日の登校指導と月1回のPTA・同窓会・後援会・青少年相談員と連携したあいさつ運動を実践する。生徒会や委員会など生徒主体の活動を取り入れる。 ④⑤⑦⑭⑮⑯⑰	A	A	・遅刻指導など生活改善に向けて保護者の理解協力を得るための取り組みの工夫 ・アルバイト許可後の確認および指導の改善 ・服装やあいさつなど社会で通用するマナーの向上 ・防犯安全教育の促進と改善 ・問題行動の未然防止に向けたプロアクティブ的な視点の授業やSHR、面談などの実施		
		遅刻に対する段階指導をおこない、遅刻の改善を目指す。 ④⑤⑦⑭⑮⑯	B				
		アルバイトについて、学業や生活へ悪影響が及ばぬよう適切に支援する。 ①③④⑤⑥⑦⑭⑮⑯	B				
	自己肯定感を育て、社会的資質・能力の発達を支える。	制服の正しい着こなしを徹底するとともに挨拶や言葉遣い等のマナーを身に付けさせる。 ④⑤⑥⑦⑭⑮⑯	B				
		登下校時に、学校周辺や通学路の安全指導を実施する。 ④⑤⑥⑦⑭⑮⑯	A				
		校内外での問題行動防止のために毎休み時間の巡回を実施する。 ④⑤⑥⑦	A				
		防犯教室・安全教室等を適切に実施し、盗難ゼロ・事故ゼロを目指す。 ④⑤⑥⑦⑭⑮⑯⑰	B				
		いじめの未然防止および迅速かつ組織的な対応を図る。	学期毎に面談・アンケートを実施する。それぞれの生徒の様子の変化に注意し、いじめの未然防止に努める。 ①②③④⑤⑥⑦⑨⑫⑬⑭⑮			A	
		保護者との連絡、教師間の情報共有を十分に行う。迅速慎重な対応を心掛けて、問題行動	A				

別紙様式2 (高)

		の早期発見・早期解消に努める。 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱			
		職員研修を実施し、関係機関との連携を図り様々な問題に迅速かつ適切に対応に努める。 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱	A		
		スマホ教室・「家庭のルール作り」を実施し、SNSの危険性や適切な利用方法を周知し、トラブルを回避できる判断力を身に付けさせる。 ④⑥⑨⑭⑮⑯⑰	A		
	学校が安心できる場所となるような支援体制の充実を図る。	生徒が抱える悩みを早期に把握しSC、SSW、外部機関等と連携して問題の早期解決にあたる。 ⑥⑨⑯⑰	A		
		職員研修等を実施し、生徒理解に努める。 ③⑥⑫⑬⑯⑰	A		
	学級における親和的な雰囲気づくりと自己有用感の伸長を図る。	SCと連携し、構成的グループエンカウンターを実施し良好な人間関係が作れるよう支援する。 ③⑥⑧⑫	A		
		年1回のΣテストを実施し、効果的な分析を学年単位で行い、各学級における生徒の立場や心理を正確に把握し、改善に役立てる。 ②⑨⑫⑱	A		
進路支援	生徒の主體的な進路選択の支援を積極的に行う。	4月、10月、1月に進路希望調査を実施し、希望動向を把握する。 ①②	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・進路に関する情報が生徒だけでなく、保護者にも伝わるような発信方法の工夫 ・オープンキャンパス、職業体験、学校外の進路イベントへの参加促進 ・主體的な進路選択へつながる進路支援の充実
		進路意識高揚のため、進路講話や各種ガイダンスを開催する。また1・2学年において職業観・勤労観の育成を図るため、体験授業等を実施する。 ②③⑦⑧⑭	A		
		定期的に進路だよりや、進路情報誌等を配付し、生徒・保護者へ進路情報を提供するとともに、LHR等での活用を促す。 ①②③	B		
	進学・就職支援の充実を図る。	進学に対応できる学力を育成するため、計画的・継続的な課外授業を実施するとともに外部模擬試験等を活用し、到達度を把握する。 ①②	A		
		生徒を体験学習、オープンキャンパス、また会社見学等に参加させ進路に対する意識づけを図る。 ③⑧⑪⑭	B		
		面接試験対策を実施し、進学・就職希望者に対して受け答えや言葉遣い、マナー等を身につけさせる。 ⑤⑧⑪	A		
広報渉外	保護者の負担を軽減したPTA活動の計画と、広報活動をとおして神栖高校の魅力の発信に務める。	マ・メールを活用し、PTA活動や学校からの連絡を周知する。 ⑮	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校内展示・掲示の工夫 ・マ・メールの充実
		保護者の負担を軽減し、効率的な活動を行う。家庭との連携を図る。 ⑭⑮⑯⑰	B		
		校内展示・掲示など広報活動の充実を図る。 ⑭⑯	A		
		スクールバス運行委員会と協力し、円滑な運行に努める。 ⑰	B		
保健厚生	快適な生活・学習環境の実現を図る。	清掃の徹底とゴミの分別により校内美化を図る。さらに、修繕等で校舎内の生活環境を整備する。 ⑫	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃時間や清掃方法の工夫 ・継続的な避難訓練の実施を通じた、緊急時対応の定着 ・定期的な衛生委員会の開催を通じた、学校環境や、教職員の職場環境の改善
		避難経路を周知徹底し、災害(火災と地震)を想定した避難訓練を実施することで緊急時の安全を図る。 ⑩⑪	A		
	生徒・教職員の心身の健康を増進させる。	健康診断による生徒の健康把握と、適切な保健指導を通して保健室の円滑な運営を図る。 ④⑫	B		
		健康管理医との連絡を密にし、衛生委員会を中心に職場環境の改善と、職員の健康増進を図る。 ⑫⑮	A		
第1学年	基本的な生活習慣の確立を図る。	月1回学年集会を行い、規範意識の向上に努める。 ④⑤	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭との連携を密にし、生徒支援を強化 ・目標を確立する支援をし、学習アプリを活用し学力の向上を図る工夫 ・進路選択に繋がる就職、進学
		登校指導やチャイム前着席の呼びかけを実施し、時間を守る意識を高める。 ④⑫	A		
		家庭との連携を密にし、問題行動の未然防止および改善に努める。 ④⑪⑫	A		
	基礎学力の向上を図る。	授業時間の確保、チャイム前の着席を徹底する。 ④⑨	B		
		スタディサプリを活用し、家庭学習の習慣づけるとともに、課外授業への積極的な参加を呼びかける。 ①⑨	B		

別紙様式 2 (高)

	進路指導を充実させる。	各種検定試験の受検を推奨し、取得に向けての課外授業などを実施する。 ②	B		における情報収集の強化 ・支援部と協力し、多角的に支援				
		総合的な探究の時間を活用し、自分自身の興味や適性に気づかせ、将来の方向性を考えるきっかけをつくる。 ②⑫	A						
		チャレンジプロジェクトでの体験活動を通して、勤労観や職業観を育成する。また、コミュニケーションスキルの向上に努める。 ⑥⑦⑧⑨⑭	B						
	心の教育を充実させる。	構成的グループ・エンカウンターやインプロなどの各種の活動を通して、人間関係を育成すると共に豊かな心を育てる。 ⑤⑧	B						
		第2学年	基本的な生活習慣の確立を図る。			上級生・集団の一員であることを自覚させ、定められたルールの中で豊かな人間関係の構築に努める。 ④	B	B	・遅刻を改善できなかった生徒への支援 ・進んで学んでいく姿勢の醸成 ・講話内容の見直し（重複）
		基礎学力の向上を図る。				遅刻指導・チャイム前着席を励行し、時計を見て時間を守る意識を高める。 ④	B		
家庭との連携・協力を密にし、問題行動の未然防止及び改善に努める。 ④⑤⑥⑦	A								
進路指導を充実させる。	チャイムと同時に授業を開始し、授業時間を確保する。 ②④		B						
	一般常識用問題集及び週末課題を用意し、学習習慣の定着を支援する。 ①②③	B							
	上位層の引き上げのために課外授業・模擬試験・各種検定を奨励する。 ①②③	A							
	ICTを活用して進路情報を豊富に与え、個々に具体的な進路計画を立てる。 ⑨	A							
		バス見学会等の体験的行事を行い、職業観と勤労観を養成する。 ⑦⑧⑩⑪			A				
		成績不振者のための考查前補講に学年職員全員で臨む。 ①②			B				
第3学年	基本的な生活習慣の確立を図る。	日常的に公共の場での過ごし方を意識させることで、規範意識を高め、社会の一員であることを自覚させる。 ④⑤	B	B	・いじめを未然防止するための工夫 ・学習アプリを計画的に活用するための工夫 ・講話等の時期の見直し				
		家庭との密な連携を図り、生徒が規律正しい生活を送れるように支援する。 ④	A						
		日頃からの生徒とのコミュニケーションを大切にして、いじめの未然防止に努め、いじめ認定件数0を実現する。 ⑥	D						
	進路の実現に努める。	学習アプリ等を活用して、既習内容の振り返り学習を継続的に支援するとともに、定期的にも実力テストを実施・評価することで、学習習慣の定着と基礎学力の向上を図る。 ①②	C						
		学級活動をはじめ、協働学習を積極的に取り入れ、生徒のコミュニケーション能力の向上を図る。 ②③	B						
		進学を希望する生徒に、進路希望を見据えた課外授業を計画し、個別の進学指導を充実させる。 ①②③	A						
	社会生活を見据えた指導の充実を図る。	全員卒業に向け、日頃から苦手を抱える生徒への支援と家庭連絡を密に行うとともに、考查前に実施する成績不振者のための補習に学年全員で協力して臨む。 ①②	B						
		授業やLHRの時間を使って人生の意義を追求し、社会の一員として自己が果たすべき役割や自立した社会生活を送ることの重要性を意識させる。 ③④	B						
		進路講話等を積極的に活用し、社会人として必要な知識や考え方を身につけさせる。 ④⑤	B						

※ 評価規準：A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できてない